

## 礼文島におけるエゾアカヤマアリの採集記録

杉浦直人<sup>1)</sup>・伊藤文紀<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号 熊本大学理学部

<sup>2)</sup> 〒 761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393 香川大学農学部

### Distributional Record of *Formica yessensis* from Rebun Island, Hokkaido, Japan

Naoto SUGIURA<sup>1)</sup> and Fuminori ITO<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Faculty of Science, Kumamoto University, Kumamoto, 860-8555 Japan

<sup>2)</sup>Faculty of Agriculture, Kagawa University, Miki, 761-0795 Japan

**Abstract.** Based on voucher specimens, we here report that *Formica yessensis* occurs on Rebun Island, Hokkaido, Japan.

著者のひとり杉浦は 1999～2013 年の 15 年間にわたり礼文島において絶滅危惧種レブンアツモリソウ *Cypridium macranthos* Sw. var. *rebunense* (Kudô) Miyabe & Kudô (ラン科) の繁殖生態に関する調査を行なった(杉浦, 2016)。その間にヤマアリ亜科とフタフシアリ亜科に属する計 10 種の生息を確認したが、そのなかにエゾアカヤマアリ *Formica yessensis* Wheeler (以下エゾアカ) とケズネアカヤマアリ *F. truncorum* Fabricius (ケズネ) が含まれていた(同定は伊藤が担当)。これら 2 種は後脚脛節の外面や触角柄節にどれくらい立毛がみられるかの違いで区別できるが(寺山ほか, 2014)、互いの外観が酷似している。礼文島のアリ相を扱った寺山(1992)と吉村(1999)では、上記 2 種のうちのケズネしか分布しないとされている。一方、最新のアリ類図鑑(寺山ほか, 2014)では、礼文島にはケズネに加えエゾアカも分布するとされている。しかし図鑑という書籍の性格上、もっぱら種同定という実用性のみに重きを置かざるを得なかったのか、その裏づけとなるデータ・ソースについては全く言及されていない。そこで本報では、標本データをともなう礼文島(礼文町

船泊村鉄府)でのエゾアカの採集記録を公表し、礼文島にもエゾアカが生息することを明示することにした(標本は杉浦が保管)。

[標本データ]

1W, Teppu, Rebun Island, 26 V, 2000, N. Sugiura leg. (セイヨウタンポポで吸蜜していた個体)。

3W, Teppu, Rebun Island, 31 V, 2000, T. Fujie leg. (レブンアツモリソウ唇弁内にいた個体)。

1W, Teppu, Rebun Island, 11 VI, 2012, N. Sugiura leg.

吉村(1999)は上記標本の採集地、鉄府でケズネを複数個体、採集している。また、杉浦の手元にも鉄府産の標本がある(1W, Teppu, Rebun Island, 17 VI, 1999, N. Sugiura leg.)。これらのことから、少なくとも鉄府ではエゾアカとケズネが同所的に生息している可能性がある(どちらの種か確認していないが、海浜植生帯に巣は普通)。今後、両種がどのような関係にあるのかを追究すれば、その過程で何か興味深い知見が得られるかもしれない。

**謝辞**

礼文島での調査にあたり，いろいろとお世話頂いた環境省，林野庁，礼文町の関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

**引用文献**

杉浦直人, 2016. レブンアツモリソウの花生物学. 高橋英樹 (編著) ランの王国: 73-84. 北海道大

学出版会. 札幌.

寺山守, 1992. 東アジアにおけるアリの群集構造

I. 地域性および種多様性. 日本生物地理学会, 47: 1-31.

寺山守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店. 278pp.

吉村正志, 1999. 北海道離島におけるアリ類 (その2, 礼文島編). 利尻研究, (18): 49-54.